

あしあと

沖縄県立開邦中学校二年 仲里 すみれ

モノクロ写真に写るこの少女は
あの日を生きた
母はおらず
幼い弟を背負っていた
小さな足で
土がむきだしの大地を
歩いていた

七十五年前
このきれいな島は
地獄と化した
もっと生きたいと願っていた命が
まだぼうぼうに燃えていた命が
赤く黒く染まって
死んでいった
人々の悲痛な叫び声は
爆撃音にかき消され
何も知らずに
殺された
心が恐怖に支配され
恐れや不安が
暗闇の中で
襲い続けた

逃げる場所がなくて
目の前には死しなくて
それを知らずに泣く赤ん坊を
泣く泣く殺したお母さんの悲しみは
生きのびるために
殺された父を
残して走る
少年と姉の苦しみは
撃たれそうになった米軍を
かわいそうだと
かばって死んだ
大人になったばかりの女性の悔しきは

ああ、なんて無力なのだろう
私は知ることしかできなかった
その感情を味わうこともできなかった
ただその事実を
息がつまりそうになりながら
聞いていることしかできなかった
どうしてもっと早く気づけなかったのだろう
戦争で失うものの大きさに
生きる権利は、命は、
みんな平等であることに
武器を持つことが強さではないことに
みんなが平和を
望んでいたというのに

私が生きるこの島は
緑が輝き
透き通った海と
澄んだ空に囲まれた
誇り高き島
地球儀で
五ミリに満たないこの島は
戦争の悲惨さも
平和の尊さも
全部知っている
こぼれ落ちた命と
生きた人々の
悲しみ、苦しみ、悔しきは
足跡となって残った

だれも救えない無力な私は
世界の争いをなくせない無力な私は
考え、問い、知らなければならぬ
生きるとは、平和とはなにか
死ぬとは、戦争とはなにか
自分を愛そう
すべてを愛そう

「命どう宝」